

中1がこの時期までに英語で言えるのは、ほとんどが「事実」です。I like soccer. I play games. — 本当のことしか言えません。want to は、その壁をはじめて越える文法です。まだしていないこと、心の中にしかないことが英語になる。だから本来いちばん言いたいことがあふれる単元のはずですが、「want to=～したい」と訳を出すだけの導入では、新しい熟語がひとつ増えるだけで終わります。この授業案は、冬休みを目前にした教室で「したい！」が最高潮になる瞬間をつかまえて、want to を出す50分です。

この教材で解決できる悩み

- 「want to=～したい」と訳を言って本文へ進むだけになり、生徒が自分のことに引きつける時間がない
- I want be a singer. (toが落ちる) ・I want to a new bike. (モノにまでto) が初出のときから混ざる
- 書かせると全員が I want to play games. で止まり、「したいこと」が広がらない

教材の概要

項目	内容
対象	中学1年（NEW HORIZON I Unit 8. BLUE SKY I Unit 8・Here We Go! I Unit 3の want to にも対応）
文法項目	want to+動詞の原形（「～したい」）※3用法・try to・look+形容詞は扱わない
形式	授業案A4（印刷版PDF・板書例と動詞の足場つき）
所要時間	50分×1コマ
準備物	スリップ用の紙（メモ用紙・付箋可）と袋か箱1つ。袋に「福」と書けば福袋です

授業の流れ（50分）

導入：冬休みまで、あと何日？（10分）

黒板に『冬休みまであと〇日』と書き、「で、何するの？」と日本語で聞きます。「寝たい」「ゲームしたい」「推しのライブ行きたい」—「したい」が勝手にあふれます。2～3人分を日本語のまま板書して、種明かし。「その『～したい』、英語では want to です」。先生自身の冬休みも2文だけ英語で明かします（I want to watch movies all day. など）。生徒の「したい」が先、英語の型が後という順番が肝心です。年明けに扱うクラスなら『今年したいこと』に置き換えるだけで回ります。

気づき：toのあとは動詞のまま（8分）

板書を整理します。

I want to play games all day. （一日じゅうゲームをしたい）
I want a new game. （新しいゲームがほしい）

押さえるのは2つだけ。①want to のあとは動詞のままの形（原形）—「want to+動詞」でひとかたまり。②ほしいのが「モノ」なら to は付けない。ゲームつながりの2文を並べると、違いが一目で見えます。たずね方 Do you want to ～? – Yes, I do! / No, I don’t. まで出して口慣らしをしたら、道具はそろいました。

展開：したいこと福袋（22分）

スリップに「この冬休みにしたいこと」を I want to ～. で1文、名前は書かずに書かせます（5分）。板書に動詞の足場：try / eat / go to / visit / watch / play / make / be。足場の動詞に自分の言葉を1語足せば文になります。ルールは1つ—「クラスのだれかに読まれます。読まれてうれしいことを書く」。

全員分を回収して福袋へ。よく混ぜて1人1枚引かせたら（自分のは引き直し）、持ち主さがしの開始です。

- 立って歩き、出会った相手に、スリップの want to から後ろをそのまま使って質問：Do you want to eat 100 gyoza?
- 違えば No, I don't. → 別の人へ。当たりなら Yes, I do! It's mine! → スリップを返して Nice! / Me too! をひとつ（同じ願いが2枚あればどちらで成立してもOK）
- 引いた1枚を届けられて、自分のスリップも戻ってきたら任務完了
- 残り数枚は先生が読み上げます：Who wants to sleep for 14 hours? – It's mine!（この救済がもう一周の聞かせる時間になります）

仕上げて数人を指名し、届けた相手を紹介させます：I found Kenta's. He wants to visit Korea.—wants になっても to のあとはそのまま、をここで聞かせておくと、次のドリルの「まちがい診療所」が効いてきます（Unit 5の三単現の復習も一周まわります）。

まとめ：自分の1文を取り戻す（10分）

戻ってきた自分のスリップを、ノートか提出カードに清書して提出。早く終わった生徒には「冬休みが終わったらしいこと」をもう1文。提出物はto落ちの分布を見る診断材料になります。単元本文へは What do you want to do for the world? という問いから入ると、Think Globally, Act Locally というタイトルの意味—「自分のしたい」から「世界のためにしたい」へ—がそのまま授業の流れになります。

I want be a singer. (to落ち) は、この日は×にしないでください。「したいことが言えた」ことを認め、板書のモデル文の形で言い直して返す（リキャスト）だけで十分。導入の日の評価軸は「Do you want to ～? と聞けた回数」と「自分のしたいことが英語になったか」—形はドリルで後から整います。

定着・入試への接続

翌週の帯活動のインタビューに Do you want to ～? を1問混ぜると、記憶が新しいうちに習慣になります。書く練習は同じ先取り単元用のwant to のはじめてドリル 中1版へ—to落ちとモノ／コトの区別という今日と同じ2点に絞った、「対話で言えた」を「紙でも書ける」に引き上げる1枚です。want to は中2で3用法（～すること・～するための・～するために）へ発展し、高校入試では「将来の夢」英作文の核 I want to be ～ になります。全体像は不定詞の教え方ガイドにまとめてあります。

